



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

<詳報>第 51 回ギャラクシー賞贈賞式取材ご案内

平素より当会にはご理解ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として51年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。第51回の贈賞式が、6月4日に開催されることとなりました。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門各部門の4部門の大賞、優秀賞、選奨が、贈賞式で発表されます。志賀信夫賞、テレビ部門個人賞・特別賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞、マイベストTV賞の表彰も行われます。

6月4日の贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道いただくようお願い申し上げます。

■志賀信夫賞

石井ふく子 演出家・プロデューサー／ゲストに水前寺清子、中田喜子ほか調整中

■個人賞

三浦春馬 「ラスト♡シンデレラ」（フジテレビ）、「僕のいた時間」（フジテレビ）の演技／欠席

■DJパーソナリティ賞

西向幸三 「ゴールデンアワー」（エフエム沖縄）パーソナリティとして

■ほか、受賞番組ゲストの出席を調整中

<贈賞式日程>

日時 2014年6月4日（水曜日）贈賞式 16:30～18:30

会場 ウェスティンホテル東京 ギャラクシールーム

東京都目黒区三田 1-4-1（恵比寿ガーデンプレイス内） Tel. 03-5423-7000

第51回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[2013年4月1日 ~ 2014年3月31日]

◎志賀信夫賞

石井ふく子

24時間テレビ ドラマスペシャル
「今日の日はさようなら」
日本テレビ放送網

◎テレビ部門

- ＊世界の子どもがSOS! THE☆仕事人バンク マチャアキJAPAN8 朝日放送
- ＊ザ・ドキュメント「みんなの学校」 関西テレビ放送
- ＊ニッポンの性教育 セックスをどこまで教えるか 中京テレビ放送
- ＊SBSスペシャル「死の棘〜じん肺と闘い続ける医師〜」 静岡放送
- ＊熱中コマ大戦〜全国町工場奮闘記〜 東海テレビ放送
- ＊NHKスペシャル「終わりなき被爆との闘い〜被爆者と医師の68年〜」 日本放送協会
- ＊連続テレビ小説「あまちゃん」 日本放送協会
- ＊NHKスペシャル “認知症800万人”時代「母と息子 3000日の介護記録」「“助けて”と言えない孤立する認知症高齢者」 日本放送協会
- ＊報道特集 シリーズ秘密保護法案「秘密保護・法案成立なら社会は? 原発情報どこまで秘匿? 現役官僚語る」「特定秘密保護法が成立…議論は尽くされたのか?」 TBSテレビ
- ＊地球イチバン「戦乱前夜に咲いた花〜世界一新しい国・南スーダン〜」 日本放送協会
- ＊テレビ朝日開局55周年記念 山田太ドラマスペシャル「時は立ちどまらない」 テレビ朝日
- ＊JNN東北スペシャルふるさと自然編 島の詩 奥松島の宮戸・月浜ものがたり 東北放送
- ＊又吉直樹、島へ行く。 母の故郷〜奄美・加計呂麻島へ BSジャパン テレコムスタッフ
- ＊信州のがん最前線vol.5 最良の時間 緩和ケア 長野朝日放送

特別賞

戦後史証言プロジェクト「日本人は何をめざしてきたのか」第1回〜第8回
日本放送協会

個人賞

三浦春馬

「ラスト♡シンデレラ」(フジテレビ)、「僕のいた時間」(フジテレビ)の演技

◎報道活動部門

- ＊「空白の68年〜日朝両国に眠る遺骨〜」一連の報道活動 朝日放送
- ＊こうのどりのゆりかご(赤ちゃんポスト)報道~実態ふまえ“放送エリアと視聴者層”拡大への取り組み~ 熊本放送
- ＊タンチョウ衝突死~保護活動への警鐘~ 札幌テレビ放送
- ＊「里山資本主義」地方、日本の新たな生き方を提案し「解決策」を提示するシリーズ番組放送と出版、全国的ムーブメントの創出 日本放送協会
- ＊シリーズ「ふるさとの記憶」 日本放送協会
- ＊「いま日本は」企画コーナー「アーサー・ピナード 日本人を探して」 BS朝日 テレビ朝日映像

◎マイベストTV賞第8回グランプリ

◎ラジオ部門

- ＊赤江珠緒 たまむすび TBSラジオ&コミュニケーションズ
- ＊途切れた119番~祐映さんと救急の6分20秒~ 山形放送
- ＊In My Life~介護の仕事と ビートルズと~ 北日本放送
- ＊白神山地 世界自然遺産登録20周年記念番組「世界自然遺産 白神山地」 エフエム青森
- ＊FMシアター「どこかで家族」 日本放送協会
- ＊ニッポン放送開局60周年記念ラジオドラマ「想像ラジオ」 ニッポン放送
- ＊TOKYO FM特別番組「これから見つめて~LOVE&HOPE 3年目の春だより~」 エフエム東京
- ＊前略、倉本聰様~小山薫堂からの贈りもの エフエム東京

DJパーソナリティ賞

西向幸三

「ゴールデンアワー」(エフエム沖縄)パーソナリティとして

◎CM部門

- ＊Eiベックス通信放送 ドコモビデオ シリーズ「出会い篇」「転校生篇」「家篇」「海篇」「駅篇」 Eiベックス通信放送 もり 電通 モリモリ
- ＊サボイ 企業「Fight篇」 サボイ 電通 電通クリエイティブX
- ＊Sansan 企業「面識アリ」 Sansan TUGBOAT 東北新社
- ＊サントリーホールディングス ペプシNEX ZERO 桃太郎「Episode. ZERO篇」 サントリーホールディングス TUGBOAT 読売広告社 東北新社
- ＊サントリーホールディングス BOSSグリーン「毎日の習慣」 サントリーホールディングス シンガタ ワンスカイ 電通 ギョクビクチュアズ
- ＊住友生命保険 企業「dear my family」 住友生命保険 TUGBOAT 博報堂 東北新社
- ＊全国都道府県及び全指定都市 LOT07 シリーズ「話が変わる前篇」「話が変わる後篇」 全国都道府県及び全指定都市 TUGBOAT 電通 電通クリエイティブX
- ＊大和ハウス工業 企業 ここで、一緒に「初雪篇」 大和ハウス工業 TUGBOAT 電通 ロボット
- ＊トヨタマーケティングジャパン ハリアー シリーズ「H. H. 篇SideA」「H. H. 篇SideB」「H. H. 篇SideA+B」 トヨタマーケティングジャパン TUGBOAT デルフィス 東北新社
- ＊名古屋テレビ放送 防災報道「その時尾鷲に奇跡を」 名古屋テレビ放送
- ＊バンダイナムコゲームス ガンダムゲーム祭 シリーズ「最初の客席」その1/その2「次の客席」その1/その2「閉店後篇」その1/その2 バンダイナムコゲームス 創通 TUGBOAT AOI Pro.
- ＊リクルートホールディングス リクルートポイント「すべての人生が、すばらしい。」 リクルートホールディングス 電通 パドル
- ＊ワールドビジョン・ジャパン チャイルドスポンサーシップ シリーズ「子供たちの声」「ゴミを捨てる少女の物語」「ティータとクーン」 ワールド・ビジョン・ジャパン ジュピターテレコム FOXインターナショナル・チャンネルズ 電映製作所

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月4日(水)開催「第51回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。



第51回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2014年6月4日(水曜日)

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付15:15、取材開場15:30、開演16:30

取材要領

- ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。
- スペースの都合により1紙/誌につき1人(カメラ別)、1番組につき1クルーでお願いします。
- 撮影希望者(スチール、ムービーとも)は、15:15までに取材受付にご集合ください。(カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。)

第51回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

| | |
|---------|-------------------------------|
| 会社名 | |
| 媒体名/番組名 | |
| 住所 〒 | |
| 担当者 | Tel. |
| Email | Fax. |
| 取材人数 | スチールカメラ あり なし テレビカメラ あり なし |
| その他 | |



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第1号である。表彰は1年単位で、今年で第51回（2013年度）を迎える。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋沢秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。2013年、第50回を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴、ラジオを聴取して番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間の賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し（ラジオは審査員推薦作品をこれに加える場合がある）、選考して、年間の賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。



◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの2点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回(上期・下期)、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。

「志賀信夫賞」について

■会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア、志賀信夫(2012年他界)の長年にわたる放送界への功績を記念して、2009年度に設立した。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰するものである。

したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図を持つ。

志賀信夫 しが・のぶお/1929(昭和4)~2012(平成24)。放送評論家。福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB(全米放送事業者協会)東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」(源流社)、「BS/CS衛星放送新時代」(電波新聞社)、「映像の先駆者125人の肖像」(NHK出版)など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたり出版。2003年にはテレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



第 51 回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2013 年度の傾向と選考経過

■テレビ部門■

委員長 丹羽美之

副委員長 中町綾子

委員 岡田芳江 河野尚行 滝野俊一 戸田桂太 桧山珠美 藤久ミネ 古川柳子 水島宏明
宮崎美紀子

2013 年度のギャラクシー賞テレビ部門には、上期 142 本、下期 145 本、計 287 本の応募が寄せられました（その内訳は、地上波が 214 本、BS・CS が 26 本、制作会社が 45 本、ケーブルテレビが 2 本）。

今回も全国の放送局や制作会社から、数多くの優れた番組が集まり、応募本数は史上最多となりました。これらの応募番組と月間賞受賞番組（48 本）について討議を重ねた結果、最終的に 14 番組の入賞が決定しました（『入賞作品一覧』参照）。

報道・ドキュメンタリーでは、それぞれの地域の課題に継続的に取り組むローカル局の姿が光り、力強い番組が目立ちました（ザ・ドキュメント「みんなの学校」、「ニッポンの性教育」、SBS スペシャル「死の棘」、NHK スペシャル「終わりなき被爆との闘い」、報道特集「シリーズ秘密保護法案」、JNN 東北スペシャル「島の詩」）。

また超高齢社会を背景に、福祉の実態をリアルにレポートするシリーズ番組や、理想の医療のあり方を提案するキャンペーン番組などが入賞しました（NHK スペシャル「“認知症 800 万人”時代」、「信州のがん最前線 vol. 5 最良の時間 緩和ケア」）。

一方、ドラマでは、東日本大震災から 3 年を背景に、うわべだけの同情や励ましを排して、フィクションの手法で大震災を描こうとする試みが評価を集めました。（連続テレビ小説「あまちゃん」、山田太一ドラマスペシャル「時は立ちどまらない」）。

エンタテインメントでは、日本の優れた職人や町工場が大活躍するバラエティや、一風変わった旅番組・紀行番組など、秀作・力作が目立ちました（「世界の子供が SOS！ THE ☆仕事人バンク」、「熱中コマ大戦」、「又吉直樹、島へ行く。」、地球イチバン「戦乱前夜に咲いた花」）。

（丹羽美之）



テレビ部門特別賞

戦後史証言プロジェクト

「日本人は何をめざしてきたのか」 第1回～第8回

日本放送協会

「地方」の人びとの言葉に耳を傾け、そこから日本の戦後を見つめようという構えの大きな構想に、敬意を表します。

「戦後史証言プロジェクト」は2013年7月と2014年1月にそれぞれ4本ずつ、8本シリーズで制作されました。7月の4番組では、戦後日本の復興や成長の陰で特定の地域に押し付けられてきた“負の代償”を浮かび上がらせました。また、東北に焦点を絞った1月の4番組では、繁栄の軌跡のなかで翻弄され続けてきた地方の苦悩が浮き彫りにされました。

長年の取材で蓄積されてきた過去の証言と、今、語られた新たな証言が織り成す地域の人びとの言葉と姿は、私たちに日本の現実についての重い思索を突きつけ、戦後史への新たな視点を示しました。

テレビ部門個人賞

三浦春馬 「ラスト・シンデレラ」「僕のいた時間」(フジテレビ)の演技

「ラスト・シンデレラ」では年上女性を翻弄する謎を秘めた男性を演じ、少年っぽい無邪気さと時折見せる男っぽさでファンの心をわしづかみにしました。特に若い男性ならではのセクシーな魅力は、他の役者にはなかなか出せない透明感あふれるもので、ドラマの世界を見事に表現しました。

一方、「僕のいた時間」ではALSという難病と闘う主人公に挑戦。症状が出始め、病魔に苦しむ姿は鬼気迫るものがあり、演技とは思えないリアルさがありました。さらに家族との確執や就職活動に悩みながらも、それらに真摯に向かい合っていく姿は、現代の等身大の若者像にも重なり、ドラマをより深く感動的なものにしました。

高校生役が多かった数年前と比べ、この1、2年は大人の役を演じるようになり、俳優としての成長ぶりには目を見張るものがあります。今しか出せない青年の美しさを存分に表現するとともに、演技の幅も貪欲に広げています。今後どのような役に挑んでいくのか、どんな魅力を届けてくれるのか、ますます楽しみな俳優です。

<プロフィール>

みうら・はるま 1990年4月5日、茨城県生まれ。幼少時から児童劇団に所属し、97年、NHK連続テレビ小説「あぐり」で子役デビュー。06年に「14才の母」(日テレ)でヒロインの恋人役を演じ注目を集め、07年には映画「恋空」(監督：今井夏木)で第31回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。10年「君に届け」(熊澤尚人)、11年「東京公園」(青山真治)、13年「永遠の0」(山崎貴)などに出演。08年には「ブラッディ・マンデイ」(TBS)で連続ドラマ初主演を果たす。翌09年「サムライ・ハイスクール」(日テレ)、10年「ブラッディ・マンデイ Season2」(TBS)と2クール連続してドラマ主演を務めた。11年「大切なことはすべて君が教えてくれた」(フジ)で月9ドラマ初主演。その他のドラマ出演作は「ごくせん」(日テレ)、「陽はまた昇る」(テレ朝)、「ラストのシンデレラ」「僕のいた時間」(フジ)など。



■ラジオ部門■

委員長 桜井聖子

副委員長 石原信和

委員 池本孝慈 茅原良平 近藤倫章 紺野 望 武田三千代 塚本 茂 原 きよ
ペリー荻野 松浦正和 柳瀬博一 山本 索

上期 38 本、下期 25 本で計 63 本応募があった。生ワイド I・II、15 本。音楽&エンタテインメント、18 本。ドラマ、15 本。報道・ドキュメンタリー、20 本。下期が 13 本減となったのは生ワイドが 4 本と激減したことが大きく影響した。今期は震災から 3 年目にあたり、下期応募の半数近くの 11 本が震災関連。ラジオならではのドラマや音楽エンタテインメント作品、3 年間の継続があつて成立する作品があった。また、コミュニティ FM は、エフエムキャッチ（愛知県刈谷市）、西宮コミュニティ（兵庫県西宮市）、軽井沢エフエム（長野県軽井沢町）から、ドラマや報道ドキュメンタリーに応募があり、作品は課題を多く残したが厳しい制作環境の中で制作者の心意気を積極的に評価したい。

選考は投票形式で行われ、投票と議論を繰り返して入賞作品を選出した。

<生ワイド I・II 部門>

「赤江珠緒 ～」（TBS）は、赤江珠緒とピエール瀧の喋りが、「楽しい」の一言に尽きる。リスナーとともに番組をつくりあげる姿勢は生ワイドのお手本。

「これからを見つめて～」（エフエム東京）は、震災直後より継続している番組の特別編。人々の声が積み重なって復興地の今が浮かび上がり、希望を感じさせる作品。

<音楽&エンタテインメント部門>

「In My Life～」（北日本放送）は、介護福祉士でアマチュア歌手の川手照子さんの半生と歌声が作品に見事に溶け込み心に沁みってくる秀作。

「前略、倉本聡～」（エフエム東京）は、小山薫堂と倉本聡の天草への創作の旅。作家同士の繊細な心の交流が見事に描かれた芸術性の高い作品。

<ドラマ部門>

「どこかで家族」（日本放送協会）は、原発事故で家族が離れて暮らすことになった実在の農家がモデル。9 年後に再会した家族の複雑な想いを巧みな台詞まわしで見事に表現。

「想像ラジオ」（ニッポン放送）は、いとうせいこうの「想像ラジオ」をラジオドラマ。被災地を舞台に想像力を刺激しながら、ドラマに引き込んでいく作品の構成力は圧巻。

<報道・ドキュメンタリー部門>

「とぎれた 119 番～」（山形放送）は、119 番通報した大学生と消防署員の音声記録は衝撃的。取材データと証言で救急医療に実態が明らかにしていく迫力ある作品。

「～白神山地」（エフエム青森）は、世界自然遺産、白神山地の鳥の声、水のせせらぎなど自然音が素晴らしく、技術力を高く評価。今ある問題点も浮かび上らせた。

大賞は、優秀賞の 3 作品と一步も譲らず、僅差で決定した。

（桜井聖子）



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

西向幸三「ゴールデンアワー」(エフエム沖縄) パーソナリティとして

ウチナーグチ混ざりの軽妙な喋り。突然歌い出す、安産祈願を叫ぶ、「ローカルの時代！」と断言する、「ハッハッハッハ」とよく笑う。人間的で体温を感じさせるトークがリスナーとの濃密な関係を築きあげ、相方・糸井美樹との絶妙な掛け合いも光ります。

番組に登録しているリスナー社員は1万人超。沖縄地域のみならず、ポッドキャスト発信で全国のファンを楽しませています。一瞬にしてリスナーの心を巻き込み力は賞賛に値します。

局員アナウンサーである西向は、制作者として企画、制作にも参加。「パーソナリティである前にラジオマンとして何ができるのかを日々考える」ことが、番組を一層面白くしています。

番組のキャッチ「ラジオはソーゾーです」。これからも、ソーゾー(想像・創造)力を喚起するアナウンサーとしてラジオを盛り上げてくれることを期待します。

<プロフィール>

にしむかい・こうぞう 1972年生まれ。沖縄県宜野湾市出身。高校卒業直後、フリーのDJとして活動開始。2年後カナダに1年間遊学ののち帰郷。米軍基地内メリーランド大学に入学し、勉学の傍らDJとして活動を再開。準文学士取得後、1998年エフエム沖縄入社。現在、放送制作部課長。「ゴールデンアワー」「INDIES SEEKER」「Movie なう」「Tommy のぬちぐすいNIGHT」「L組」「blank」などでDJパーソナリティ、ディレクターを務める。「ゴールデンアワー」は第48回(2010年度)ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞。



■ CM部門 ■

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 秋吉淳一郎 小川幸子 河合良文 草川 衛 田家秀樹 田中秋夫 谷岡理香
千葉健吉 本庄雅之 山家誠一

本年度は上期 127 本、下期 117 本（シリーズ作品は 1 本とカウント）の応募があった。昨年度はギャラクシー賞 50 周年ということで多数の応募があったが、残念なことに今回は減少した。

応募の中に大作と呼ばれる作品が数多くあった。選奨には漏れたが、アクエリアスの丹念なドキュメント、麒麟ビール・夢のドリームの映画を思わせる一連シリーズ、初めて宇宙の E.T. に発信した CM と思われる味覚糖、トヨタ自動車 TOYOTOWN の豪華キャストシリーズ、武者 VS 騎兵の戦闘が迫力の日清カップヌードル。下期ではアニメーションが壮大な林野庁、ロケ風景が息をのむキヤノンのシリーズ、人間とチーターがサバンナで戯れるカロリーメイトなどなど。一方、日常の生活を丹念に描きつつドラマタイズされた CM も目立った。「沸いております」のオチが微笑みを誘う平田温泉、宮崎あおいが魅力的なクロスカンパニー、上野樹里が賃貸マンションのセキュリティを模索する大和ハウス、岡田准一がひとりで 4 役も 5 役も演じる日本生命、ソフトバンクの白戸家も健在だった。

最近の CM はつまらないのか、小粒なのか、世の中に発信するパワーがないのか。選奨委員すべての意見を集約して言えることは「断じて違う」である。総体的にクオリティが上がり、タレントに依存せず、広告としての余裕が感じられた。だから「最近の CM はおもしろくない」ということばは「最近の若者はヤル気がない」と同義語のような気がしてならない。

一方で、ゲームやケータイの CM、Web など新しいメディアに導くための CM、15 秒 CM、地方の CM などの分野で課題も見えた。ギャラクシー賞 CM 部門の発展のために関係各位のなお一層のアドバイスとご協力をお願いしたい。

今年度の入賞作品をご紹介します。

ドコモ d ビデオ 対照的なふたりの女子高生を描くドラマの中で通信放送を印象づけた。

サボイ バックをマスクにしたプロレスラーの戦い。バックを選ぶ女性心理をメタファー。

Sansan 名刺を一括管理するシステムを松重豊ほかユーモラスに演じる。

ペプシ 桃太郎の昔話を圧倒的なスケールで描く。自分より強いヤツを倒せのメッセージ。

BOSS 旬の片岡愛之助と大久保佳代子の競演。「院長〇〇です」と繰返すセリフ秀逸。

住友生命 食卓風景を淡々と描きながら家族の絆を訴えた生命保険の新しい表現。

LOTO7 柳葉部長と妻夫木部員の初期シリーズ。演技と演出が冴えまくる。

大和ハウス 海外出張した妻と仕事をこなしつつ家を守る夫リリー・フランキーのドラマ。

ハリアー H.H の正体を巡るミステリアスで魅力的な映像。チャレンジな姿勢がいい。

名古屋TV 南海トラフ地震で被害が予想される尾鷲の小学校で作られたテンデンコの歌。

バンダイ スナックのママ松雪泰子と客、パーティーの 15 秒人間ドラマ。

リクルート ゴールは人生の数だけあるのメッセージ。実写のマラソンイベントに度肝。

Wビジョン 1 日 50 円の支援チャイルドスポンサーが説得力あるドキュメンタリー。（五井千鶴子）



■報道活動部門■

委員長 鈴木嘉一

副委員長 市村 元

委員 稲塚秀孝 小原道雄 加来由子 兼高聖雄 河邑厚徳 福島俊彦 堀川恵子
堀木卓也 宮前周司

2013 年度の応募総数は、上期 6 本、下期 18 本の計 24 本だった。ここ数年は微増傾向にあり、前年度より 1 本増えた。上期 3 本、下期 7 本に絞られた入賞候補作の中から、6 本の入賞作が選ばれた。

今回の特徴としては、東日本大震災の被災地を含め、地域の人々と現実に真正面から向き合った報道活動が目立った。今回も、ローカル枠のニュースやドキュメンタリーにとどまらず、取材成果を基にしてドラマを作ったり、放送した内容を書籍化したりするケースがみられた。東日本大震災と福島原発事故の関連では、前年度の 6 本を上回る 11 本の応募があった。いつか起こるかもしれない震災に備えて防災教材を制作するなど、「防災・減災」をめざす報道活動の幅も広がっている。

札幌テレビ放送「タンチョウ衝突死～保護活動への警鐘～」。特別天然記念物のタンチョウが釧路湿原一帯で増え、列車とぶつかって死ぬ事故が相次いでいるため、その背景や保護活動のあり方を掘り下げた。生息地の過密化などの問題を指摘し、あえて警鐘を鳴らすのも地元局の役割だろう。

熊本放送「『このとりのゆりかご』をめぐる一連の放送」。親が育てられない赤ちゃんを匿名でも預かる施設をローカルニュースや全国ニュース、ラジオの特集、ドラマで取り上げ、問題点や課題も浮き彫りにしてきた。一連の放送は、母子の命を救う「妊娠葛藤相談」の大幅な増加につながった。

朝日放送「空白の 68 年～日朝両国に眠る遺骨～」。2011 年以降、日朝両国で置き去りにされたままになっている遺骨の問題を継続的に取材してきた。遺骨の返還や墓参は対立する両国の国民感情を和らげ、日本人拉致問題の重い扉をこじ開ける可能性もある。

テレビ朝日映像「アーサー・ビナード 日本人を探して」。BS 朝日の報道番組「いま日本は」の企画コーナーで、日本語が達者なアメリカの詩人が全国各地を訪れ、伝統と風土に根ざす人々と対話を重ねる。写真で構成し、言葉の重みを際立たせる手法が新鮮だ。

NHK 広島放送局「『里山資本主義』の提言と報道活動」。無価値と思われてきた里山の資源を生かす新たな経済活動に光を当てるとともに、「本当の豊かさとは何か」を考えさせる提言報道。インターネットでの動画配信や出版化によって、「中国山地から始まった静かな革命」は全国に発信された。

NHK 盛岡放送局 シリーズ「ふるさとの記憶」。東日本大震災による大津波で消失した街並みを模型で復元する大学生たちと、街の記憶をよみがえらせる住民の活動を追った。岩手県内の各地で開催された展示会との連動は、地元密着型の報道活動の可能性を広げた。

(鈴木嘉一)



放送批評懇談会 第 5 回志賀信夫賞

<志賀信夫賞選考委員会>

委員長 音 好宏

選考委員 橋本 隆 上滝徹也 小田桐 誠 藤田真文

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなどに、幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当選考委員会が、慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第 5 回志賀信夫賞の受賞者に、演出家・プロデューサーの石井ふく子氏を選出いたしました。

石井ふく子

東芝日曜劇場「橋づくし」(1958 年)以来、「女と味噌汁」(1965~80 年)、「肝っ玉かあさん」(1968 年)、「ありがとう」(1970~73 年)などから、「渡る世間は鬼ばかり」(1990 年~)へと、半世紀にわたって家族や男女の機微を丹念に描くドラマを制作し続けてきた信念は、そのホームドラマを通して失われゆく家族の絆に警鐘を鳴らすものでもあり、せめてもの希望でもあります。

そして何よりも注目すべきは、数々のヒット作や長寿シリーズが物語るように、石井ふく子のドラマは視聴者に愛されるドラマ、視聴者と共にあるドラマであった、という事実です。ギャラクシー賞大賞、芸術祭賞大賞といった評価は得られなくとも、これは視聴者のテレビドラマへの親しみや信頼を培うという意味で、ドラマ文化の根底のところで高く評価されるべき制作ワークといえます。

また、連続ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」(1990~2010 年)の 20 年にわたるシリーズ実績は、橋田壽賀子(脚本家)の筆力とあわせて、ドラマの国際化時代への教訓にもなっています。なぜなら、ワンクール・ドラマでは海外のドラマ編成に対応出来ず、50 話、70 話は当たり前という韓流の活力に負けてしまっているからです。

数々の俳優を育ててきたことも併せて、石井ふく子のプロデューサー歴はテレビドラマの過去と未来をくっきりと照射するものです。

<石井ふく子プロフィール>

いしい・ふくこ 1926 年 9 月 1 日東京下谷生まれ。東京女子経済専門学校卒業。新派の名優・伊志井寛を父に持つ。1950 年日本電建宣伝部入社。61 年 TBS にプロデューサーとして入社。長寿番組となった「東芝日曜劇場」を手掛け、今日のホームドラマの礎を築いた。「愛と死をみつめて」「女と味噌汁」「カミさんと私」「肝っ玉かあさん」「ありがとう」「女たちの忠臣蔵」など数多くの作品を輩出し、制作本数は 3,000 本を超える。また、90 年には岡倉家の 5 人の娘たちの波乱に満ちた日常を描く「渡る世間は鬼ばかり」を制作し、以来、2011 年に第 10 シリーズ終了後もスペシャルとして放送を継続するなど、国民的ドラマとして視聴者に高い支持を受ける。1968 年 11 月新派公演「なつかしい顔」から舞台演出も手掛け、「花のこころ」「唐人お吉」「妻たちの鹿鳴館」「おしん」などを演出。1989 年紫綬褒章、2004 年菊田一夫演劇賞特別賞受賞。著書に「心におしゃれを」「お陰様で」「思い出かくれんぼ」など。



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定!

マイベストTV賞第8回グランプリ

24時間テレビ ドラマスペシャル「今日の日はさようなら」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「24時間テレビドラマスペシャル『今日の日はさようなら』」には、「日常の大切さや残された時間をどう過ごすかを考えさせられたドラマ」「演じている俳優が本当の家族のようだった」「大野智の細やかで自然な演技が光る」という視聴者の賞賛の声が数多く寄せられた。ガンに冒され余命宣告を受けた青年の姿を描いたドラマで、大野智、岸本加世子、三浦友和ら俳優陣の演技も素晴らしく、見るものに大きな感動を与えた。

解説

マイベストTV賞に参加したWeb会員は、2014年4月10日現在で8098名。これに放送批評懇談会の正会員194名が加わった計8292名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、2013年4月度から2014年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作40本（特別投票3本を含む）の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

811票を獲得しグランプリに選ばれたのは、日本テレビの「24時間テレビ ドラマスペシャル『今日の日はさようなら』」。“終わった後に残る清々しさが何とも心地よい” “人生の道を真剣に考えることができたドラマ” “毎日を大切に、家族を大切にと強く思った”といったコメントが寄せられるなど、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位はフジテレビの「鍵のかかった部屋 SP」。“ストーリーや台詞のテンポが良く、話に引き込まれた” “大野智の演技をもう一度連ドラで見たい”など、こちらも大野智ファンの強い支持を集めた。

第3位はNHKの「嵐の明日に架ける旅 2013」。“小学生の息子が過去のもも含め、何度も見返すくらい好きな番組” “日本の未来に希望が持てる内容で、嵐の5人が楽しく進行している”など、嵐ファンから強い支持を得た。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定するが、今年度、深夜番組の特別投票を行ったように、ニュース番組や音楽番組を特別投票でノミネート作に盛り込むなど、新しい試みを実施する予定である。



最終投票結果

| | | |
|--------|--|-------|
| 第 1 位 | 24 時間テレビ ドラマスペシャル「今日の日さようなら」(日本テレビ) | 811 票 |
| 第 2 位 | 鍵のかかった部屋 SP (フジテレビ) | 801 票 |
| 第 3 位 | 嵐の明日に架ける旅 2013 (NHK) | 641 票 |
| 第 4 位 | 日曜劇場「安堂ロイド」(TBS) | 301 票 |
| 第 5 位 | 失恋ショコラティエ (フジテレビ) | 296 票 |
| 第 6 位 | 日曜劇場「半沢直樹」(TBS) | 288 票 |
| 第 7 位 | テレビ朝日開局 55 周年記念 2 夜連続ドラマスペシャル「宮本武蔵」(テレビ朝日) | 286 票 |
| 第 8 位 | 連続テレビ小説「あまちゃん」(NHK) | 271 票 |
| 第 9 位 | SMAP×SMAP「SMAP5 人旅」(フジテレビ) | 266 票 |
| 第 10 位 | 僕のいた時間 (フジテレビ) | 240 票 |

参考

★どんな賞？

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO（特定非営利活動法人）になったことを節目として創設されることになりました。NPOとして、放送と市民との橋渡しとなるような活動を強化したいと考えたからです。放送局が送り出すたくさんの番組たち。果たして視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。

視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

視聴者がだれでも自由に参加できる本格的な番組賞が、日本に初めて誕生しました。

★賞の本数、対象年度

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度（4月～翌年3月）ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

★賞の仕組み

審査員は放送批評懇談会正会員、Web会員。選出は放送批評懇談会ホームページの投票でおこなう。

毎月の候補番組は放送批評懇談会選奨事業委員会テレビ部門が制定。

会員は毎月1回、IDとパスワードで投票ページに入室し、候補番組の中から3本まで選んで投票。

得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される。（投票の経過・結果はWebで発表）

会員は毎年4月、12か月のあいだに選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組5本を選んで投票。この年間のベスト番組投票で、もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、<ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ>に選出される。



NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日(任意団体放送批評懇談会=1963年4月)

■会勢 正会員194名 維持会員139社

■役員

理事長=音好宏 専務理事=橋本隆

常務理事=上滝徹也、小田桐誠、藤田真文

監事=隈部紀生、鈴木典之

理事=飯田みか(出版編集委員長)、藤久ミネ(選奨事業委員長)、碓井広義(企画事業委員長)、丹羽美之(選奨事業委員会テレビ部門委員長)、桜井聖子(選奨事業委員会ラジオ部門委員長)、五井千鶴子(選奨事業委員会CM部門委員長)、鈴木嘉一(選奨事業委員会報道活動部門委員長)、滝野俊一(マイベストTV賞プロジェクトリーダー)、石井彰、市村元、入江たのし、川喜田尚、小林毅、坂本衛、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登(事務局長)

■目的および事業

広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

(1) 放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業 (2) 優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業 (3) 放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業 (4) 放送に関する調査・研究事業 (5) 放送に関する団体や機関への提言事業 (6) 視聴者、放送関係者との交流事業 (7) 放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業 (8) その他、目的を達成するために必要な事業

■主な活動

放送の専門誌 [GALAC/ぎやらく] の編集・発行

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組の問題を様々な角度から取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰

本会がNPOになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間1本のグランプリを選出。

[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催

その時々の放送をめぐる関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。